



平成29年度 第3回一橋大学政策フォーラム

ロシア研究センター開設10周年記念企画

経済制裁下プーチンのロシア

ロシアが2014年、ウクライナ南部クリミア半島を編入したのを機に始まった日米欧による経済制裁。4年が過ぎた今も解除の道筋は見えない。経済制裁下のロシアで今何が起きているのか。一橋大学は1月19日、ロシア研究の第一人者が議論するフォーラムを開催、ロシアの実情に迫った。



【出席者】
パネリスト（右から）横溝佐登史、兵頭慎治、仙石学、岩崎一郎、雲和広、
コーディネーター（左端）安達祐子 の各氏

パネルディスカッション 制裁下のロシアを見る眼

安達 対ロシア制裁は今後も企業活動はどうなるのか。
溝端 経済制裁だけでなく油

経済に大きな影響を与える。制裁のレベルも対北朝鮮制裁とは別次元だ。政策では国産比率を高める動きがあり、この1年はイノベーションを重視している。輸出戦略とも結び付くなど従来と違う動きがみられる。生産が問題になる制裁が長引けば不満が出てくる。制裁に伴い、極東でのプロジェクトが増え、インドとのつながりが注目されている。

仙石 制裁はEU分断を深めた。ロシアの対応は変わらず、逆にEUに経済の不調が出てきた。EUの業界団体は制裁中止を要請し、ドイツ、フランス、イタリアも制裁解除を唱え始めた。制裁賛成のボーランドとバルト3国は他国と違う立場に置かれている。制裁に賛成する国はごく一部で、上げた拳をどこで下ろすかが問題になっていない。逆に制裁が反歐米レト

いだろう。ロシアへの経済制裁は国々の生活を搖るが似つかない。一方、ロシア企業の全体数は減っていない。新興企業が登場し経営体力をついている可能性もある。制裁下でロシア企業が

国産比率重視、極東・インドに進出 制裁は効果なくEU分断が深化

溝端氏
仙石氏

企業は変化のチャンスを逃している

岩崎氏

仙石氏

い内容ではない。1990年代のソ連崩壊直後の混乱を体験しないロシア企業は消滅するだろう。これは大企業の話で、重大な危機につながる。制裁下で國民が消費や投資を控えていること

変化したのかどうかがロシア経済の未来に影響する。安達 中ロ関係や対欧米強硬政策についてどう見るか。兵頭 経済制裁から中ロの軍事的連携はあったが境界も見える。中国の広域経済圏構想一带一路が打ち出されたときにロシアも警戒した。将来的に

飲み込まれる懸念はある。

対欧米強硬政策は政治的レト

ーンと考へている。もしNA

T-Oと事を構えたら核戦争にな

る。そこまでしてバルト3国を

会の問題は何か。

岩崎 ロシア企業は経営が厳

しくても変わらない。変わらな

いのが良さでも悪いところ

が多分にあり、それなりに成

が一番は国の信頼に尽くる。不

運転はいつもの現象だ。

これが最も重要な点だ。

溝端 多額の経済収支黒字の

シードも起きたが、大統領選で

分けた考へるのは難しい。制裁

が多分にあり、それなりに成

が脆弱になるとは考えにくい。

これが最も重要な点だ。

これが最も重要な点だ。